

JOMF 派遣医師便り (2014. 3)

◆シンガポール◆

シンガポールの異常気象！？

シンガポール日本人会クリニック

日暮 浩実

シンガポールのチャンギ気象台の発表によりますと、本年2月の月間降雨量が1869年以来、月間降雨量として最小記録を更新したとのことです。2月の月間降雨量はわずか、0.2mmだったとのことです。これまでの記録は2010年の6.3mm、過去の長期間（1869年からの過去145年）の2月の平均降雨量は161mmとのことですから、極端に少なかったことが伺えます。

今回のシンガポールの少雨は1月の半ばごろから続いています。2月に降雨を見たのはわずか7回で、雨は主に西部に限られていたとのことです。

シンガポールでは現在、需要量のうちの30%が再生水（いわゆる new water）で賄われていて、市民生活で湯水という実感はありませんが、さらなる人口増加が予想されている中、将来的な不安要因となっています。

そして、この2月は過去30年間で最も風が強かった月でもありました。一日平均風速は13.3 km/h(3.7m/s)だったとのことです。今までの記録は12.5 km/h(3.5m/s)を記録した1985年1月です。そして過去30年ほどの2月の月平均風速は8.8 km/h(2.4m/s)です。

ちなみに東京の今年の2月は3.3m/s、過去30年平均はおおよそ3.5m/sでした。冬の東京より強い風が吹いていたということになります。

降雨量が少なく、風が強いと言っても、もともと高温多湿ですから東京のように乾燥はしません。過去の記録から見る2月の月平均湿度は82.9%でしたが、今年は74.5%となっていました。

この状況は3月半ばまで続くと言われますが、3月後半になると、風向きも変わり雨も期待できるとのことです。

風向きが変わると降雨は期待できるものの、ヘイズ（大気汚染）が懸念されます。シンガポールにおけるヘイズの主たる原因は、インドネシアの人工的森林火災とされますが、既に衛星写真で200か所以上のホットスポット（森林火災地点）が確認されています。ここ数日のPSI (Pollutant Standard Index)は50程度、PM2.5の濃度は $30 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 程度でした。（ちなみに東京では3月初めの一週間では概ね平均 $20 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下）例年ですと、この時期にヘイズを気にすることはありませんので今年は異例です。風向きは主に北東なので、まだ、ヘイズの影響は少ない段階と思われるのですが、南東モンスーンに変わっていく3月後半からは、更なる影響が懸念されます。

外来では鼻炎などヘイズの影響ではないかと疑って来院される患者さんが既に多くなってきており、今後は心配されます。